

2月

ろうさい病院 心臓病の情報箱  
「健診で心電図異常と言われたら」

循環器内科部長

ふじい のぞむ  
藤井 望



循環器医になって30年ほどになりますが、今でも「私は心電図が苦手です」。方眼紙に黒インクで波形が何本か描かれたこの単純な検査は、その原理を説明するのは難しいですが、心臓の肥大や心臓に加わる負荷、心臓の炎症や心筋血流障害、そして不整脈など、様々な心疾患を診断することが可能です。

心電図波形がどんな臨床的意味を持っているのかは、先代の崇高な諸先生方の観察経験の積み重ねにより発見・定義されており、心電図が発明されて約120年が経過した現在でも、新たな心電図解釈が発表されています。心電図検査は極めてアナログ的な検査であり、一枚の心電図を見ながら、「少しこの部分が上がっている？」など一度気になってしまうと、もうそうとしか見えなくなってしまうなど、正確な心電図診断を行うことは非常に奥が深く、難しいものなのです。

そんな心電図検査ですが、循環器検査の中で皆さんに一番身近なものかと思います。定期健診で毎年心電図検査を受けておられる方も多いのではないのでしょうか？そして、結果判定で「心電図異常・要二次検査」と書かれた用紙をもらったことはありませんか？「私、胸の症状は何もないのに、どうして？」と思われた方もおられると思います。元々、心電図所見は個人差が大きく、特に問題ない場合でも、いわゆる「正常範囲」から外れることがあります。また、異常ではあるものの、病的意味を持たない所見もあります。

健診で指摘される異常所見の中で「心電図異常」は比較的頻度が少なくない印象です。なので「要精査」と言われても、直ちに心配しなくても良いかと思いますが、高血圧や糖尿病、高コレステロール血症などの疾患を有しておられる方、喫煙されている（されていた）方、肥満症の方などで、心電図異常が新たに指摘された場合は、やはり注意が必要です。二次検査目的に受診して頂くことになるかと思いますが、まずは、かかりつけ医に受診・相談されることをお勧めします。心電図所見は個人差があり、以前の心電図と比較することが診断に重要となるからです。

【富山ろうさい病院 院内公開講座・生活習慣病教室】のお知らせ

場所：富山ろうさい病院 2階採血室待合フロア

《院内公開講座》

2023年度第3回院内公開講座は3月頃開催予定です。乞うご期待ください。

《生活習慣病教室》※2階外来受付にお声掛けください。

日時 令和6年2月28日（水）14時00分～15時00分

テーマ 「生活習慣病と災害の備え～災害時の対応について～」

講師 当院看護師、薬剤師、管理栄養士